第4回 NSE Engineering Co.,Ltd.

●株式会社 長崎製作所　(英文名:NSE Engineering Co.,Ltd.)
●代表取締役社長 長崎 民郎
●本社・工場　〒252-0816
神奈川県藤沢市遠藤2012-2
TEL 0466-86-6137(代表)　FAX 0466-86-1337
http://www.nse-e.com/

●ベトナム工場 (ビンズン省)
LOT A-9C-CN,Bau Bang Industrial Park,
Ben Cat District Binh Dung
敷地約10,000m2、建物約3,000m2

●ベトナム事業所 (ホーチミン市)
296 Duong D2, P.25, Binh Thanh District, HCM
TEL:(84) 8-3898-1242　FAX:(84) 8-3898-1243

●営業種目
半導体・太陽電池及び液晶関連装置機器設計製作, 組立,
食品関連機器設計製作,組立, 鉄道・車両関連部品, プラント関連,
(遠心分離器・コントロールバルブ・火力・水力・原子力関連機器設計製作,組立)
造船関連製作,組立, 差圧流量計設計・オリフィス関連設計製作, 実流実験全般.

ベトナム事務所　永田 所長

株式会社長崎製作所(英文名:NSE Engineering Co.,Ltd.)<※以下、NSE>は神奈川県藤沢市に本社を置く機械部品加工企業であり、2009年にはベトナム事務所を開設し、現在2010年8月からのビンズン省のバウバン工業団地内での工場稼動にむけて現在準備の最終段階を迎えている。ベトナム工場での主な製品は、車両用部品、食品・石油・ガスプラント用フランジ、プラントの流量測定部品などの機械加工、組付、溶接が予定されている。
今回はNSEのベトナム工場立ち上げを担当されたベトナム事務所の永田所長にお話を伺った。

永田所長とベトナムとの関わりは1997年に遡る。当時、永山所長は別の自動車部品製造企業に勤めており、タントアンの現地工場へ技術指導に来たのが、ベトナムとの関わりの始まりであった。その後技術指導は1年で終了し帰国することとなったが、ベトナムには頻繁に出張することがあり、2002年から2005年まで現地工場での責任者も勤め、生産規模を3倍にまで拡大した。ベトナムとの関わりが増えるにつれ、永田所長はベトナムの将来性と国民性に対して大いなる可能性を感じるようになる。
その後、偶然の縁から永山所長は、ベトナム進出を予定していたプレス機械の販売・メンテナンス・技術指導・コンサルタント業務の立ち上げに関わる事となり、立ち上げから経営が軌道に乗るまでの3年間、技術指導だけではなく総務、経理、人事などあらゆる業務を担当した。その後それまでの工場立ち上げの経験を買われて2009年から現在のNSE社に入社し、工場の立ち上げに日々邁進している。

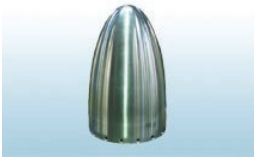
ベトナム進出

NSEベトナムは、同社の初めての海外工場である。NSEは、これまで日本本社に6名のベトナム人研修生を受け入れてきており、創業者の長崎社長が、ベトナム人研修生の勤勉な勤務態度と技術の習得能力の高さ、そして人間性に可能性を感じたことにより、ベトナム工場の設立が決定された。
工場立上げ後は、この6名の研修生の内、4名が既にベトナム工場に勤務しており、あと2名が順次帰国予定であり、工場業務の中核的役割を担う予定になっている。
工場設立をBinh Duong省に決定したのも、この研修生たちの出身が南部であったことが大きな決め手になったとのこと。
現在工場の立上げ準備はほぼ完了しており、6月末より日本人2名が工場に常駐し、立上げの準備を行い、8月からの生産開始を目指している。
NSEの主要商品は車両やプラントなどに使用される大型部品や特殊な機械部品であり、今後ベトナムでの鉄道やプラント、発電所などの建設案件が増えることにより、受注を伸ばして行きたいとしている。

バウバン工業団地　工場稼動にむけての準備風景

差圧流量計設計製作

プラント関連機器



造船関連機器

また、ベトナムでは小型の機械部品に対応できる企業は、相当数が存在しているが、大型の機械の加工が出来る企業はまだ少ないため、今後大型の機械設備を導入し、大型の機械加工にも対応していく予定にしている。
NSE日本本社ではこれまで部品の生産のみを行い、設計は流量計の別会社が担当していた。しかし2009年末に機械部品の設計を行う企業と合併し、現在では設計から生産までを一貫して行える体制が整っていることも、同社の強みといえる。

今後の展開

同社の工場は建設が既に終わっており、第1段階の生産が8月から稼動予定である。今年中には25名体制とし、将来的には100名体制で生産を行う予定である。
その後は、第2フェーズとして工場の拡張も既に計画されており、拡張が完成すると工場面積、従業員数ともおよそ2倍の規模となる予定である。
現在すでに数社からベトナム工場への発注依頼が来ており、早急に工場の稼動を図る必要に迫られている。
他の海外拠点としては、上海に事務所を出しており、現地企業への技術サポートなどを行っている。今後は上海事務所と連携の上、ベトナムだけではなく、中国、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドなど周辺国からの仕事も受注を目指して行く考えだ。

ベトナム事業のポイント

ベトナムで長年の工場立ち上げ経験を持つ永田所長は、現在でもベトナム現地の最新の情報収集に余念がない。
正しい判断をするためにはより多くの正確で新しい情報が必要であるとの信念の下、積極的にセミナーや勉強会、情報交換会に出席し情報収集を行い、独自の分析を踏まえた上で本社に報告書を提出している。たとえば物価の上昇に関して、永田所長は米価とガソリン価格を常に基準にして独自の物価上昇率を算定しており、政府発表のCPI上昇率と照らし合わせた上で、社員の給与調整などの指標として用いているとのことである。
ベトナムで複数の工場の立上げに携わってきた永田所長に、ベトナムで事業を成功させる秘訣を伺ってみた。
永田所長によると、最も大切なことはベトナム人との信頼関係を構築することとのことであった。信頼関係を構築するためには、ベトナムの文化や習慣、歴史をよく理解する必要があり、可能な限りベトナム語を話す努力が必要だと永田所長は考えている。また問題が発生した際には、ベトナム人の言い分も良く聞き、公正に裁くことが非常に大切とのことであった。ベトナム人とよく話し合うことそれが、ベトナムでビジネスを円滑に成功させる最大のポイントである。
人間関係以外では、情報の調査も大変重要であるとのことであった。ベトナムで正しい情報を収集することは日本人が考えるよりも大変な作業であり、日本では考えられないようなロスが発生し兎に角、何事にも時間がかかる。そのような時でも、ベトナムでは日本の5倍~10倍の忍耐が必要と思って我慢強く対応することが必要であるとのことであった。また、現地で情報交換や相談に乗ってもらえる信頼できる日本人仲間を持つことも非常に有益で、常にお互いの情報を交換し合うことで、変化し続けるベトナムの状況を正確に掴む事が出来るようだ。

ベトナム工場　ビンズン省バウバン工業団地